

(様式1) ※A3判(1枚)に収める。実践充実プランの内容と年間推進計画書との整合性に留意して記載すること。

「道徳教育推進拠点校事業」実践充実プラン 香美市立 舟入小学校		校長	大井 厚志	教員数		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		合計	
		道徳教育推進教師	比与森 信幸	18	児童生徒数	20	1	23	1	15	1	17	1	18	1	19	1	112	6(9)
研究テーマ		自分が好き、友達が好き、舟入が好きな児童の育成～教材や人との対話を通して、よりよい見方や考え方を育てる～																	
年度当初の学校の状況		到達目標			中間検証(下半期に向けての改善事項)						年度末(到達目標達成状況)								
<p>本校の児童は、素直で周りの人に対して優しく、礼儀正しい言動のできる児童が多い。道徳の授業には、多くの児童が意欲的に参加し、教材から自分事として考えようとする。</p> <p>学校全体で自他よさを認め合う取組を続けているが、できて当たり前と考えたり、他者と比べると自分は劣っていると考えたりするなどの理由で、自分のよさを実感できていない児童も多々いる。</p> <p>12月には将来の夢を考える機会を設け、一人一人が将来の夢を書き、高知新聞に掲載する取組を行った。また、日々の学習とキャリア教育との連携を意識することで、年度末の調査では、「将来の夢や目標をもっている」の項目で86.2%という結果が出ている。</p> <p>また、各学年が地域と関わる学習や行事を計画的に実施しており、地域の人への感謝や、地域についての誇りをもっている児童も多々いる。しかし、その地域をさらによくしていくという意識はまだ低い。</p>		<p>道徳意識調査の以下の項目における肯定的回答の割合について83%以上を維持する。</p> <p>① 道徳の勉強はすきだ</p> <p>② 道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている</p> <p>③ 自分にはよい所があると思う</p> <p>④ 将来の夢や目標をもっている</p> <p>⑤ 人が困っているときは進んで助けている</p> <p>⑥ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある</p>			<p>5月実施のアンケート結果(肯定的評価)</p> <p>①②④⑤の項目については、目標値を上回る事ができているが、香美市の平均と比べるとどれも高い水準にあるとは言えない。</p> <p>③の項目においては昨年度末の78.9%よりも下がっており、取組が必要であることが分かった。本年度は、縦割り班での活動(全校学活でのサークルトーク)を増やしたり、ふわふわタイムを活用してエンカウンターやハッピーレターに取り組んだりして自己肯定感を高めるようにしている。今後も継続していきたい。</p> <p>⑥の項目においては、昨年度末よりは上昇しているが目標には至っていない。上昇した要因としては、学校運営協議会や民生委員さんとの連携を深め、多くの方々に授業や活動に参加していただいたからではないかと考える。今後も総合的な学習の時間や生活科との関連を図りながら地域や社会とつながる機会を意図的に設定していきたい。</p> <p>授業改善においては、より多角的・多面的に、自分事として考えられるような発問やめあての設定を研究している。めあてを中心発問に据えることで早く教材から離れ、自分事として考えられるように工夫改善をしている。また、構造的な板書についても研究を進めている。板書が発言記録にならないように、意見を対比させたりイラストや短冊を活用したりする研究を進めている。</p>						<p>① 道徳の勉強はすきだ 87.6%</p> <p>② 道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている 83.8%</p> <p>③ 自分にはよい所があると思う 77.1%</p> <p>④ 将来の夢や目標をもっている 86.5%</p> <p>⑤ 人が困っているときは進んで助けている 85.6%</p> <p>⑥ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある 83.8%</p> <p>③の自己肯定感の項目においては、年間を通して80%に達しておらず、本校の課題であると考え。次年度は8割超えを目指す。その他の項目においては、83%以上の肯定的回答を達成することができた。指定研究の最終年度は目標数値を85%以上に上げて取り組みたい。</p>								
到達目標達成のための取組		取組計画 ※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)																	
取組項目	取組の評価指標	5月～8月			中間評価	9月～2月(中間検証を踏まえての追記・変更可)						達成状況		年度末評価					
道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実	◆道徳運営部会をもって、研究体制の改善及び進捗管理を行う。(毎月1回以上) ◆各教科等、道徳教育との関連を整理し、各学年の別業、年間指導計画に基づく取組の検証を行う。(3回以上)	①道徳教育の全体計画(各学年の別業)、各学年の道徳科の年間指導計画の作成(4月)及び検証(7月)、道徳意識調査の結果に基づく協議・取組策の検討(6月) ②道徳の内容と各教科等との関連について検証・道徳の時間の年間指導計画の評価欄への記入(事後研にて随時記入) ③既存の取組や総合的な学習の時間等、体験的学習との関連を図った授業実践及び道徳教育を充実させる取組の実施 ④授業者と道徳教育推進教師が、事前研→授業実施→事後研のサイクルにおいて、短時間で打合せする時間の確保(事後研 放課後)(事前研 火:4、5年 水:6年 木:1、3年 金:2年)			C	①道徳教育の全体計画(各学年の別業)、各学年の道徳科の年間指導計画の実践及び検証(12月、2月)、道徳意識調査の結果に基づく協議・取組策の検討(10月) ②道徳の内容と各教科等との関連について検証・道徳の時間の年間指導計画の評価欄への記入(事後研にて随時記入) ③既存の取組や総合的な学習の時間等、体験的学習との関連を図った授業実践及び道徳教育を充実させる取組の実施 ④学校の諸事情により授業者と道徳教育推進教師による事前研及び事後研のみ行う。						◆月1回以上の運営部会は実施できなかった。 ◆年度当初にカリマネを作成し、それを基に各教科・領域との関連を図った。 ◆道徳教育全体計画(別業)及び年間指導計画の検証は、適宜実施した。意識調査の結果を全教職員で共有し、項目の低い所への対応を協議した。		C					
道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業研究	◆公開授業研究の案内を出し、授業についての意見をもらう。(4回以上) ・道徳授業チェック【教師用】【児童用】の全項目を3.5以上にする。	①公開授業研究会(3年:5月15日畿央大学島教授を招聘)・道徳授業チェックシートの活用・集計・分析 ②道徳授業チェックシート(全教師、全児童)の結果及び道徳ノートを活用した個人内評価に係る協議・授業改善策の検討 ③教具の作成・活用、学習指導案、板書写真等の整理・保管 ④舟入スタンダードに沿った検証授業の実施 ⑤指定校の教材研究会及び公開授業への参加(吉良川小学校)			B	①公開授業研究会(5年、1年:9月4日畿央大学島教授、1月高知大学森准教授を招聘)中間発表会(2、4、6年:11月27日畿央大学島教授を招聘) ・道徳授業チェックシートの活用・集計・分析 ②道徳授業チェックシート(全教師、全児童)の結果及び道徳ノートを活用した個人内評価に係る協議・授業改善策の検討 ③教具の作成・活用、学習指導案、板書写真等の整理・保管 ④舟入スタンダードに沿った検証授業の実施 ⑤指定校の教材研究会及び公開授業への参加(岡豊小学校)						◆公開授業の案内を出し(中間発表含む)、多くの先生方に参加していただくことができたが、最後の授業で案内を出せなかった。 ◆授業チェックシート【教師用】においては、2項目のみ(教材提示・板書)3.5以上を達成。【児童用】においては9項目(発問以外)が3.5以上を達成。		B					
道徳科の趣旨を踏まえた評価の研究	◆道徳ノートの活用や授業評価を基に、自己を見つめ、よりよい生き方につなげるための評価方法について研究を重ねる。 ◆授業評価を実施し、PDCAサイクルに基づいた見取りと点検を繰り返す。	①事前研・事後研において、道徳ノートや授業評価を活用して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、各担任と道徳推進教師で共有を図る。 ②道徳教育推進教師が毎時間、3人以上の児童評価を書きためていく。 ③評価の仕方を校内で共有→1学期評価の実施及び通知表の記入→1学期の個人懇談で保護者に伝達→2学期の評価について改善の実施			B	①事前研・事後研において、道徳ノートや授業評価を活用して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、各担任と道徳推進教師で共有を図る。 ②道徳教育推進教師が毎時間、3人以上の児童評価を書きためていく。 ③評価の仕方を校内で共有→2学期評価の実施及び通知表の記入→2学期の個人懇談で保護者に伝達→3学期の評価について改善の実施						◆「自分事」「多面的・多角的」の2つの観点から授業や学習評価を実施したが、担任と道徳推進教師の共有ができなかった。 ◆道徳教育推進教師が中心となり、評価を見取ったり点検をしたりすることが2学期以降できなかった。		C					
家庭・地域と連携した道徳教育の推進	◆全学級公開による道徳参観日を実施(1回)し、保護者参加率を90%以上にする。 ◆学校の掲示板に道徳コーナーを設け、月ごとに内容を新たに更新する。 ◆HPに道徳の研究部屋を設置し、更新する。(学期に1回以上) ◆道徳日より、懇談会、コミュニティ・スクールにおいて研究の周知徹底、道徳の時間の支援体制の推進を図る。(学校日より 毎月1回以上)(道徳日より 毎月1回以上)	①参加型の授業や保護者と子供による懇談会等を通して、児童、保護者、地域の方々とともに考える道徳参観日の実施(6月) ②児童、保護者、地域の人の参加による道徳フォーラムの実施 ③学校日より、学級日より、道徳日より、HP等による推進活動 ・道徳参観日への参加の呼びかけと取組を道徳日より、HP等で発信 ・保護者参観アンケートの実施・取りまとめ・分析、取組成果の発信 ・道徳日よりやHPのほか、学級日よりにも道徳欄を設け、道徳の授業の様子や縦割り班活動、総合的な学習の時間における体験活動等、全教育活動における児童の道徳実践の紹介 ・道徳教育の推進の計画や公開授業日と内容等の周知 ・なかよし保育園、山田特別支援学校、ワークセンター白ゆり、博愛園等の教育、福祉関係機関に学校日より、道徳日よりを配布する。(毎月1回) ④入学式・PTA総会・集会・始業式、終業式等での校長の話や、6月の学級懇談会、夏休みの宿題で「高知の道徳」を活用する。			B	①研究テーマに基づいた研究授業、研究協議を実施できるように研修の場を設定し、本校の道徳教育について考える機会をもつ。 ②児童、保護者、地域の人の参加による道徳フォーラムの実施 ③学校日より、学級日より、道徳日より、HP等による推進活動 ・道徳参観日への参加の呼びかけと取組を道徳日より、HP等で発信 ・保護者参観アンケートの実施・取りまとめ・分析、取組成果の発信 ・道徳日よりやHPのほか、学級日よりにも道徳欄を設け、道徳の授業の様子や縦割り班活動、総合的な学習の時間における体験活動等、全教育活動における児童の道徳実践の紹介 ・道徳教育の推進の計画や公開授業日と内容等の周知 ・なかよし保育園、山田特別支援学校、ワークセンター白ゆり、博愛園等の教育、福祉関係機関に学校日より、道徳日よりを配布する。(毎月1回) ④集会・終業式等での先生の話や、11月の学級懇談会、冬休みの宿題で「高知の道徳」を活用する。						◆道徳参観日では、84家庭中76家庭の参加で出席率90%を達成。 ◆掲示板コーナーは2学期以降定期的な更新はできなかった。 ◆HPについては、情報担当と連携を図り、更新することができた。(学期に1回以上) ◆道徳日よりは、ほぼ毎月発行することができたが、発行できない月もあった。(1月末までに7号発行) ◆学校日よりは、毎月発行することができた。		B					